

## 県民交流広場ふるさと交流会 2015 の実施報告

県民交流広場等を舞台に活動する地域活動団体が一堂に会し、多様な主体との交流を深める『県民交流広場ふるさと交流会 2015』が、10月18日（日）、丹波の森公苑で盛大に行われました。

前年度までの『地域コミュニティ・アワード』で実施していた広場の表彰制度を廃止し、地域のニーズや広場のレベルに応じた多くの人・広場が気軽に参加できるイベントとし、また、『丹波の森フェスティバル』と同時開催であったこともあり、秋晴れの下、約5千人が会場を訪れました。



### 1. ステージ

ふるさと交流会のオープニングステージは、岡野ふるさとづくり協議会（篠山市）が岡野太鼓を披露しました。澄み切った丹波の青空に太鼓の迫力ある音がとどろきました。



昼のステージは、まず、若草ふれあいのまちづくり協議会（神戸市須磨区）のフラチーム「マヒナ ナニフラクラブ」がフラを披露されました。小さなお子様から大人まで楽しく踊られました。



続いて、今田まちづくり協議会（篠山市）が今田小唄を披露されました。今田のシンボル「ときめきくん」が見守る中、唄やはやし、三味線や尺八による演奏にあわせて踊られました。



ステージの最後は、遠阪自治協議会（丹波市）が  
銭太鼓を演奏されました。丹波市のシンボル曲である  
「丹波市音頭」に振りを付け、披露されました。



伝統文化の継承や演奏・踊りを通じた交流など目的は様々ですが、地域の方  
が集まって共通の目標に向かって練習し、心をつなげて披露する。地域にお  
ける人のつながりが感じられました。

## 2. ブース展示

多目的ルームでは、15 地区がブース出展されました。のぼりを掲げたり、ゆる  
キャラが登場したり、小水力発電装置や昔の農具の展示をするなど、創意工  
夫を凝らした個性あふれる展示により、日頃の活動をPRされました。

他の地区の活動に関心を持ち、話を聞く姿も見られ、交流を図る良い機会と  
なりました。





### 3. 味覚コーナー

中庭の味覚コーナーには、10 地区が出店し、旬の黒豆や地域の特産物の試食販売、パネル展示を行い、来場者の空腹を満たしていました。



### 4. 広場インタビュー

総合司会の向井祥隆氏がマイクを持って出展地区を巡回し、各地区が活動をPRされました。

地区のPRということで、みなさん自然と話に熱が入っていました。



### 5. 基調講演

一般社団法人ノオトの金野代表理事を講師に迎え、「空き家再生利活用を通じたまちの魅力づくり」をテーマに、約1時間講演していただきました。

広場関係者以外の来場者も多く、みなさん熱心に耳を傾けていました。



### 6. 事例発表

助成金終了後も自助努力で継続的な活動を行っているユニークでモデル的な2つの広場の活動内容について事例発表をしていただきました。

佐用町江川地区「江川地域づくり協議会」の岡野センター長には、地域デマンド交通の取り組みや、「陰陽師」によるまちおこしについて発表いただきました。



淡路市生田地区「生田地域活性協議会」の田村事務局長には、むらづくりに対する思いや、そばを活用したまちづくりについて発表いただきました。



## 7. 座談会

コミュニティ応援隊の柏木登起氏をファシリテーターに、坂本津留代氏、和崎宏氏、岡田孝久氏をコメンテーターに迎え、

「① 後継者育成…高齢化による人材不足」

「② 住民の関心を得るには…若い人の参画促進」

「③ 活動資金不足…助成終了後も継続するには」

をテーマとして、事例発表者2名を交えて意見交換していただきました。

課題や取組みの工夫など様々な意見が飛び交い、出展地区の方からも質問や意見が飛び出すなど、時間が足りないと感じる方も多かったのではないのでしょうか。



## 8. 抽選会

交流会のフィナーレは、広場や県民局・県民センターからご提供いただいた地域の特産の品々を賞品として抽選会を行いました。

多数の方が集まり、当選番号が発表される度に皆さん一喜一憂し、盛況の内にふるさと交流会 2015 が終了しました。



## 9. さいごに

「地域コミュニティ・アワード」から「ふるさと交流会」に名称・内容を変更して初めての開催でしたが、ブース展示や特産品販売、ステージ発表を通じて、広場の活動が多様であることを改めて認識する機会となったのではないのでしょうか。

他地区の活動状況から受けた刺激を、今後の広場活動につなげていただければと思っています。

ご来場いただいた皆様、ご参加いただいた広場の皆様、誠にありがとうございました。